

共生する社会へ

十数万人が埋め尽くすスタンド、高らかに響くファンファーレ。栄冠を目指して時速約60kmで駆け抜ける、華々しい競馬の世界。

その裏で、引退した馬を厳しい現実が待ち受けているのを「存じだらうか。株式会社日本サラブレッドコミュニケーションズ(以下TCC Japan)は、ケガや成績不振で引退を余儀なくされた馬を受け入れ、

障がいのある子どもたちの療育に活用している。



地域資源である馬を活用して ホースセラピーを開始

平日15時を過ぎると、子どもたちの歓声が施設に響く。この日やつてきたのは、近隣の小学校の支援学級の児童たち。一人ずつ乗馬し、背にまたがったまま補助者とボール遊びをする。手綱を引かれた馬は荒ぶる様子も見せず、ゆっくりと馬場を回る。かつて身を置いた競馬の世界に比べれば、なんとも穏やかな余生だ。

いまや競馬先進国といわれるわが国では、中央・地方競馬を合わせて毎年5千～6千頭が登録抹消され。引退後は繁殖や乗馬用に回されるほか、半数以上は食肉やペットフードなどの加工品となる。「乗馬用と公表していても、その行方を追うことは難しい。実際にには、かなりの割合で処分されているでしょう」と、TCC



TCC Japan代表取締役
山本 高之さん

Japan代表取締役の山本高之さんは話す。生まれも育ちも栗東市という日本人さん。大学卒業後、コンサルタント会社の勤務を経て2006年に東京で起業したが、東日本大震災を機に地元での地域貢献を志した。市内にはJRA栗東トレーニング・センターがあり、地域資源ともいえる馬を活用できなかと考えた。理学療法士である妻の妃呂己さんの父は、元JRA騎手で「天才」と呼ばれた福永洋一さん、兄はJRA通算2400勝(2021年1月達成)を誇る福永祐一さん。山本さんは、競馬の世界を身近に感じられる環境にあった。2015年9月、市の古民家を借りて放課後等デイサービス事業所「ポニー・キッズ」を開所。馬

を活用し、6～18歳に向けたホースセラピーを始めた。「用地が決まるまでに、先走ってポニーの購入を決めてしまって。開所までは大変な道のりでした」とはにかむ。一般的に、馬は興行性が強い。「ギャンブル、危ない、臭い」といった負のイメージが先行しがちで、地域の反対もありました。住民の方々に納得いただけよう、何度も説明会を開きました」

2頭を活用したホースセラピーが軌道に乗ると、あらかじめ構想していたホースシェルターの実現に向けて動き出した。2018年、現在の栗東市六地蔵に移転し、「TCCセラピーパーク」をオープン。「人と馬の福祉活動」をテーマに掲げ、子どもたちのプレールームやラウンジを備えた建屋

人と馬の福祉活動を通して 社会を豊かにしたい

「ポニー・キッズ」は、従来の6～18歳を対象とした放課後等デイサービス事業に加え、移転後から未就学児を療育支援する児童発達支援事業もスタートした。各定員は1日10人まで。現在は放課後等デイサービス事業が定員に達し、児童発達支援事業はまだ空きがある。施設には理学療法士(妃呂己さん)のほか、作業療法士、保育士、児童指導員などが常勤し、一人の乗馬に2～3人が付き添う。利用者は1割の自己負担でサービスを利用できる。

「子どもたちには、乗馬だけではなく、馬房の掃除などの世話を経験してもらいます。馬との関係性をゆっくりとつくり、情緒を育みます」と山本さん。最初に情緒面での変化が現れやすく、統ければ身体面でも筋力の向上などを期待できる。こうした療育サービスを求めて、土日は京都、大阪、福井などからも利用者が訪れるという。

一方、TCC Japanが取り組む馬の福祉活動である「TCC」(Thoroughbred Community Club)の頭文字をとった略称で、いわば引退競走馬を応援するファンクラブだ。

行き場のない引退競走馬を受け入れるホースシェルターの活動は、すでに馬房4つが埋まつたた

上)馬は毎日適切な運動をさせるほか、子どもたちのセラピー前にはウォーミングアップとストレス発散を兼ねた運動をさせる。下右)滋賀県立大学金子尚志研究室と共同で設計した施設は、2019年のグッドデザイン賞、キッズデザイン賞をW受賞。山本さんのこだわりが詰まっている。下左)現在は引退した競走馬7頭、ポニー5頭を飼育する。馬房はウッドチップのさわやかな香りで満たされている。

に、ホースシェルターや馬場を併設した。

**人と馬の福祉活動を通して
社会を豊かにしたい**

「ポニー・キッズ」は、従来の6～18歳を対象とした放課後等デイサービス事業に加え、移転後から未就学児を療育支援する児童発達支援事業もスタートした。各定員は1日10人まで。現在は放課後等デイサービス事業が定員に達し、児童発達支援事業はまだ空きがある。施設には理学療法士(妃呂己さん)のほか、作業療法士、保育士、児童指導員などが常勤し、一人の乗馬に2～3人が付き添う。利用者は1割の自己負担でサービスを利用できる。

「子どもたちには、乗馬だけではなく、馬房の掃除などの世話を経験してもらいます。馬との関係性をゆっくりとつくり、情緒を育みます」と山本さん。最初に情緒面での変化が現れやすく、統ければ身体面でも筋力の向上などを期待できる。こうした療育サービスを求めて、土日は京都、大阪、福井などからも利用者が訪れるという。

一方、TCC Japanが取り組む馬の福祉活動である「TCC」(Thoroughbred Community Club)の頭文字をとった略称で、いわば引退競走馬を応援するファン

クラブだ。

帰り際、駐車場から施設を眺めた。馬房の4頭が、吸い込まれるように優しい目で見送ってくれた。

＼TCC Japanの活動を支援しよう！／



[TCC会員]1,100円／月

TCCの活動に参加し、全国各地で暮らすTCCホースとのふれあいや乗馬や、オンラインサロンオフ会での会員同士の交流など、さまざまな会員特典を受け取ることができます。2月・3月は「入会金無料&友達紹介ポイント2倍キャンペーン」を実施中。

[シェルターサポーター]2,200円／月

ホースシェルターのサポート者になって、行き場のない引退後の競走馬を救います。

[TCCオーナー]一口4,400円、半口2,200円／月

TCCホースのオーナーとなって、全国各地の提携する乗馬クラブや牧場に所有権を持つたまま預託し、引退競走馬の活躍の場をつくります。TCCオーナー価格での乗馬や毎月のオンラインレポート、オーナー専用のコミュニケーションなど、さまざまな特典を受け取ることができます。

■Information
株式会社日本サラブレッド
コミュニケーションズ
TEL077-584-5945
栗東市六地蔵31-6

MAIL info@tcc-japan.com
twitter @JapanTcc
facebook @TCCTherapyPark
instagram @tcc_japan

